



平成 29 年 2 月 13 日

各 位

上場会社名 コクヨ株式会社
代表者 代表取締役社長執行役員
黒田 英邦
(コード番号 7984)
問合せ先責任者 経営管理本部 財務経理部 統括部長
永井 琢也
(TEL06-6976-1221)

グループ中期経営計画の目標修正(上方修正)に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 10 月 23 日に公表しました「コクヨグループ中期経営計画」の目標数値を下記の通り修正しましたので、お知らせします。

記

1. 修正の内容

中期経営計画の最終年度である平成 30 年 12 月期において、売上高 3,200 億円以上、売上総利益率 35.5%以上、営業利益 175 億円以上、営業利益率 5.5%以上の達成を目指します。

また、主要財務指標の見通しとして平成 30 年 12 月期のROEを 6.5%としています。

当社グループ中期経営計画(平成 28 年度～平成 30 年度)の目標数値

(単位:億円)

	平成27年12月期	平成28年12月期	平成29年12月期	平成30年12月期	
	実績	実績	目標	当初目標	修正目標
売上高	3,042	3,076	3,160	3,100以上	3,200以上
売上総利益 (率)	1,010 33.2%	1,054 34.3%	1,108 35.1%	35%以上	35.5%以上
販売費及び一般管理費 (率)	899 29.5%	900 29.3%	948 30.0%	30%以下	30%以下
営業利益 (率)	111 3.6%	154 5.0%	160 5.1%	155以上 5%以上	175以上 5.5%以上

2. 修正の理由

平成 28 年 12 月期の業績は、提案活動の推進、商品ミックスの改善等により、売上総利益率が向上したことに加え、固定費の効率的な使用に努めた結果、売上高 3,076 億円、営業利益 154 億円、営業利益率 5.0%となりました。

平成 28 年 12 月期の営業利益率が最終年度の目標を達成したこと等を勘案し、中期経営計画の目標数値を、上方修正しました。

なお、戦略に変更はございません。

(ご参考) 中期経営計画の概要

1. 将来にわたる企業のありたい姿、3か年における基本方針

将来にわたる企業のありたい姿を「コクヨは、商品・サービスを通じて、顧客の創造性を向上する価値を提供することにより、人々のより良い はたらく・まなぶ・生活する“Quality of Life の向上”を実現し、社会の役に立つ Life & Work Style Company を目指す」としています。

そのために、3か年の新たな経営の基本方針を、『価値創造にこだわる自己改革～Value Transformation 2018～』とし、顧客本位にこだわった価値創造を実現する“運営モデルの改革”と、中長期の持続的成長を可能とするための“収益体質のつくりこみ”に取り組みます。

2. 運営モデルの改革

どの事業においても、顧客への付加価値向上による収益性の改善・成長を実現するために、「シェアと粗利率」にこだわり、メーカー、流通が“全社一丸”となって、中長期の持続的成長を担保する運営モデルを実現します。これにより、過去最高となる売上総利益率 35.5%以上を目指します。

ステーションナリー事業の基本方針：

『NB商品のシェアと粗利率にこだわり、顧客への価値を高め続けることで持続的成長を実現する』

ファニチャー事業の基本方針：

『差異化された新たな付加価値による業態進化を目指すことで持続的成長を実現する』

カウネット事業の基本方針：

『顧客への付加価値にこだわった“魅力的な第3極”戦略による成長の兆しを獲得する』

海外事業の基本方針：

『顧客への価値提供と事業収益性の確保を両立させ持続可能なビジネスモデルを確立する』

3. 収益体質のつくりこみ

この3か年で、経営効率の改善により、営業利益率 5.5%以上を達成することにこだわります。事業部門と管理部門の業務の重複をなくし、管理部門が事業運営における効率化を推進することで、全社の管理・間接業務の大幅な生産性の向上を目指します。これによる直接部門でのリソース創出、生産性向上及び新価値創造に取り組むことで、高収益体質への転換を実現します。

以 上

【本資料における注記事項】

本資料に記載されている業績予想、将来予測は現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。